

- 腸管出血性大腸菌感染症多発警報を発令[対象期間;8 月 29 日(金)から 9 月 7 日(日)]
- 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は、感染性胃腸炎、ヘルパンギーナ
- RS ウイルス感染症が 3 週連続で増加

1. 全数報告の感染症

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症の全数報告対象の感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に報告することになっています。これらの報告のあった症例を診断された週毎に集計しています。

診断週	類型	報告数	詳細情報
第 36 週診断例	一類感染症	報告なし	
	二類感染症	結核 6例	肺結核;3例(60歳代男性、80歳代男性、90歳代女性)、結核性胸膜炎(70歳代女性)、無症状病原体保有者(30歳代女性、40歳代女性)
	三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2例	O157 VT2;2例(10歳代女性;2例)
	四類感染症	レジオネラ症 2例	肺炎型;2例(60歳代男性;2例)
	五類感染症	アメーバ赤痢 1例 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1例	腸管アメーバ症(40歳代男性) A群(60歳代女性)
第 35 週以前の診断例(*)	二類感染症	結核 1例	頸部リンパ節結核(50歳代女性)

(*)平成26年 第 1 週以降に診断され平成26年第 36 週に報告された症例

2. 全数報告の感染症の累計報告数と保健所管内別報告数

平成 26 年 第 1 週以降に診断された疾患を集計して累計報告数を滋賀県と全国について下の表に示しています。また、本週報の当該週に報告された症例数を保健所管内別に示しています。なお、期日以降に報告があった場合は、再集計し掲載しています。

分類	疾患	滋賀県		保健所別(36週)							平成26年累計		平成25年累計※	
		35週	36週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島	滋賀県	全国	滋賀県	全国
二類	結核	8	6	3	1	0	1	1	0	0	157	17,702	277	26,471
三類	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	73	3	142
	腸管出血性大腸菌感染症	5	2	0	0	0	0	2	0	0	20	3,127	40	4,033
四類	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	394	0	128
	重症熱性血小板減少症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52	0	48
	レジオネラ症	2	2	0	0	0	1	1	0	0	8	813	18	1,111
五類	アメーバ赤痢	0	1	0	1	0	0	0	0	0	8	763	6	1,041
	ウイルス性肝炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	1	284
	急性脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	330	3	358
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	122	2	205
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	1	0	1	0	0	0	0	0	6	186	5	207
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1,032	13	1,550
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	42	0	82
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	134	3	106
	侵襲性肺炎球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	1,240	11	970
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1,126	3	1,220
	破傷風	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	87	0	128
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	277	122	14,357
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	31
	麻疹	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	445	2	232

※ :平成26年1月現在の暫定数

3. 定点把握の対象となる五類感染症の発生状況

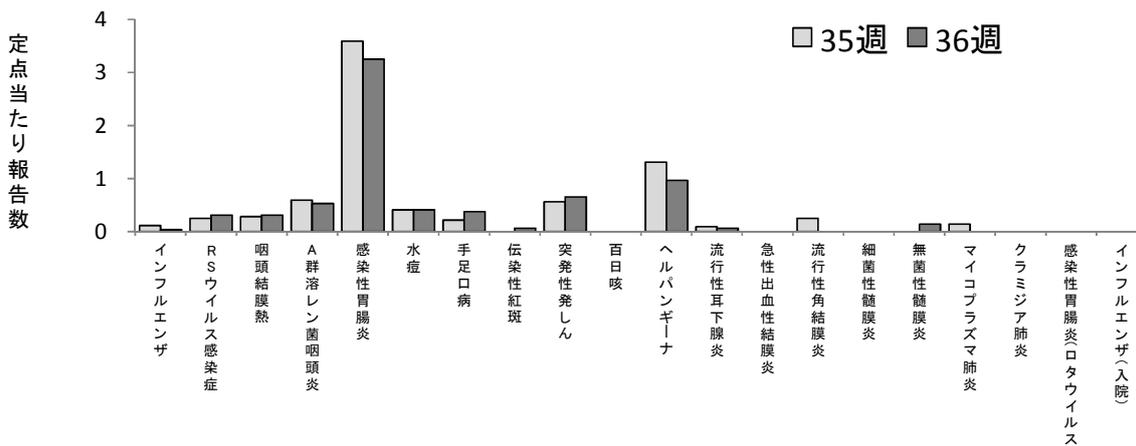
感染症法で定められている五類感染症のうち、滋賀県が指定した定点医療機関(指定報告機関)から報告される感染症を定点把握対象感染症と呼びます。

警報: ヘルパンギーナ 高島保健所管内(警報開始基準;6.00、警報終息基準;2.00)

注意報: なし

- 1) 小児科定点医療機関からの報告数が多かった感染症は感染性胃腸炎、ヘルパンギーナです。
- 2) 感染性胃腸炎が草津、甲賀、彦根、高島保健所管内で増加しました。
- 3) RSウイルス感染症が3週連続で増加しています。先週と同様に大津市、甲賀、東近江および高島保健所管内で報告がありました。
- 4) ヘルパンギーナは、高島保健所管内で、定点当たり報告数が高い値で推移しており、警報発令は継続です。

定点把握の対象となる五類感染症の定点当たり報告数



4. 定点把握の対象となる五類感染症の保健所管内別の定点当たり報告数

週単位(月曜日から日曜日)で報告される定点把握対象感染症の、滋賀県および管轄保健所別定点当たり報告数を下の表に示しています(定点当たり報告数=報告数/定点医療機関数)。

定点区分 (定点数)	疾病名	滋賀県		保健所別(36週)						
		35週	36週	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島
インフルエンザ (53)	インフルエンザ	0.11	0.04	0	0	0	0	0	0	0.67
小児科 (32)	RSウイルス感染症	0.25	0.31	0.71	0	0.25	0.60	0	0	0.50
	咽頭結膜熱(プール熱)	0.28	0.31	0.14	0.50	0.25	0.20	0.25	0.75	0
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.59	0.53	0.57	1.50	0.75	0.20	0	0	0
	感染性胃腸炎	3.59	3.25	2.14	2.50	1.00	3.60	5.50	5.50	4.00
	水痘	0.41	0.41	0.43	0.67	0.25	0.80	0.25	0	0
	手足口病	0.22	0.38	0	0.17	0	1.20	0	0	2.50
	伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0.06	0	0	0.25	0	0.25	0	0
	突発性発しん	0.56	0.66	0.43	1.33	0.25	1.00	0	0.75	0.50
	百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘルパンギーナ	1.31	0.97	1.00	0.67	0.25	1.20	0.25	0.50	5.00
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.09	0.06	0.29	0	0	0	0	0	0
眼科 (8)	急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎	0.25	0	0	0	0	0	0	0	0
基幹 (7)	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎	0	0.14	0	0	0	0	0	1.00	0
	マイコプラズマ肺炎	0.14	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	インフルエンザ(入院)※※	0	0	0	0	0	0	0	0	0

* 平成25年10月14日の滋賀県感染症発生動向調査事業実施要綱改正に伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

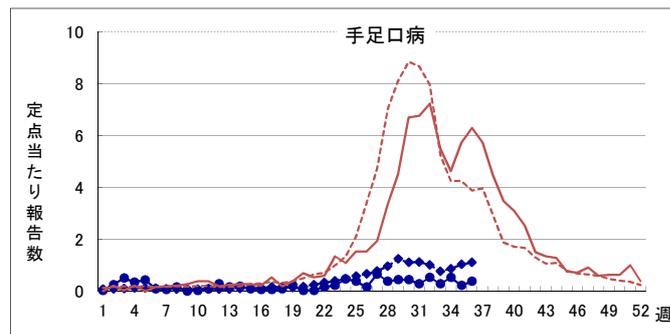
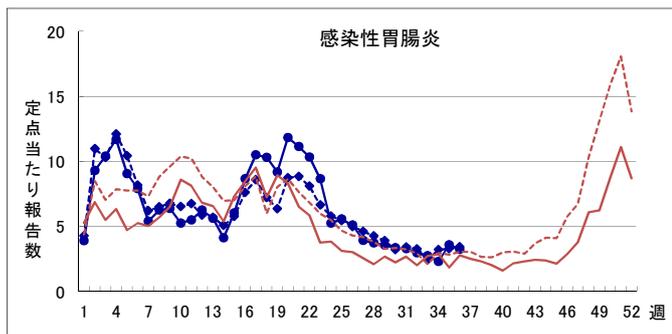
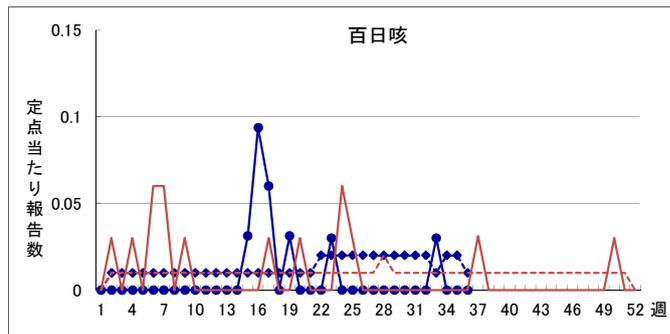
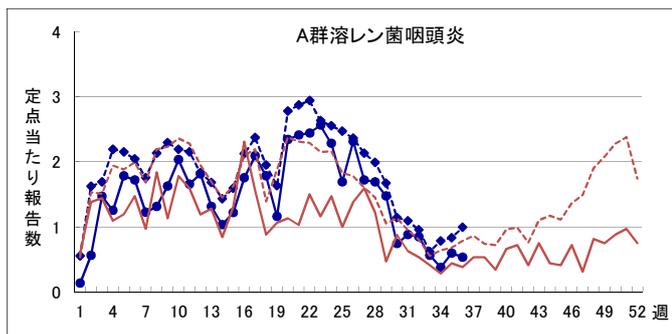
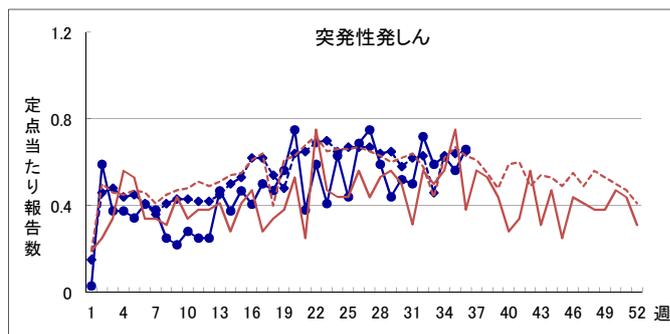
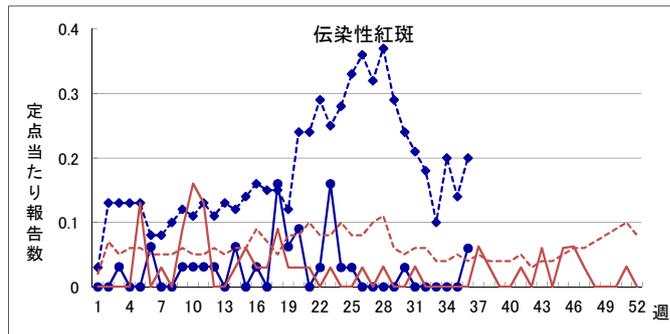
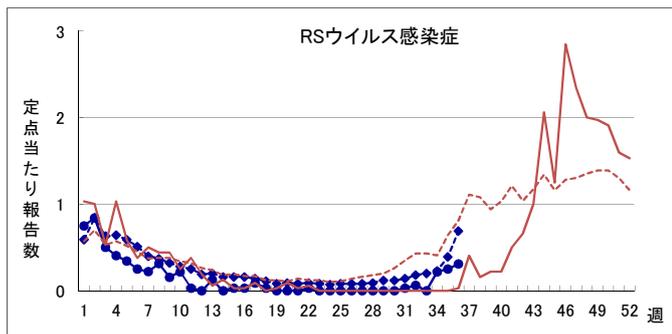
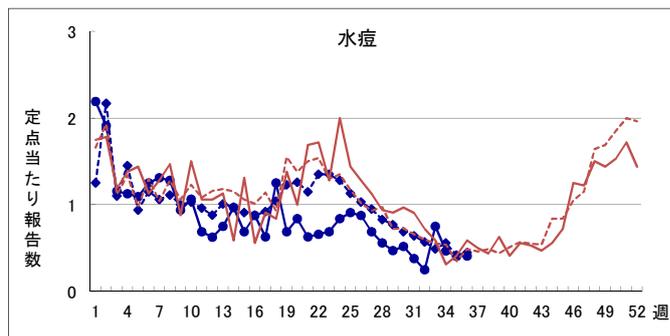
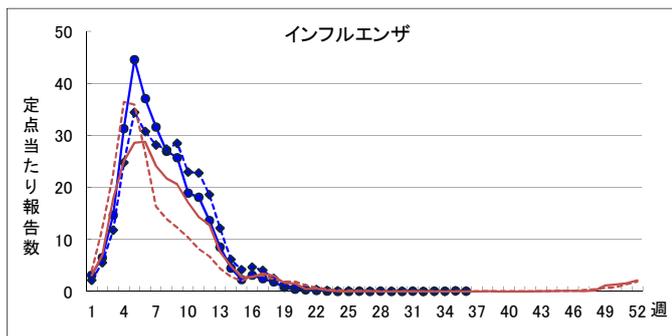
** 平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり報告数)を掲載

赤字: 警報レベルの基準値(開始基準値または終息基準値)を超過

紫字: 注意報レベルの基準値を超過

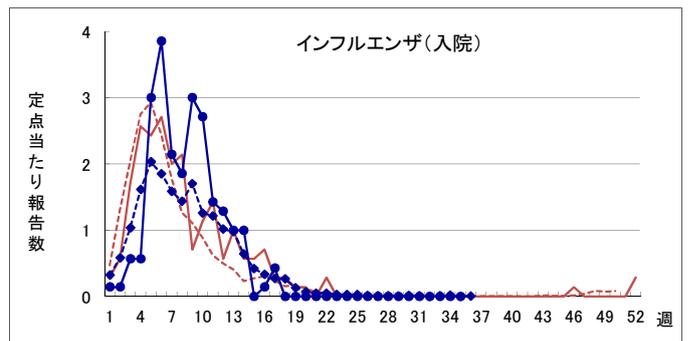
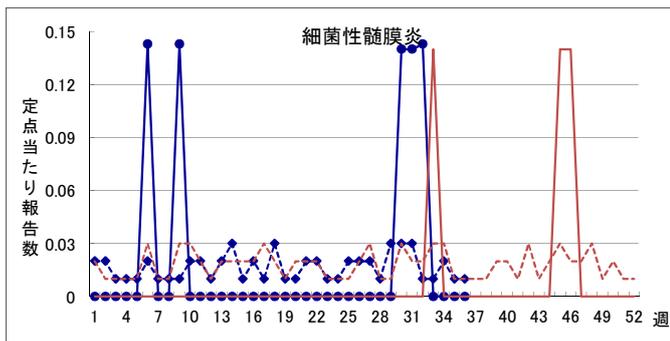
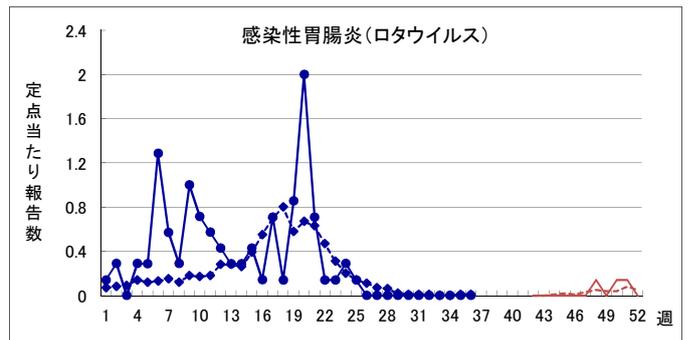
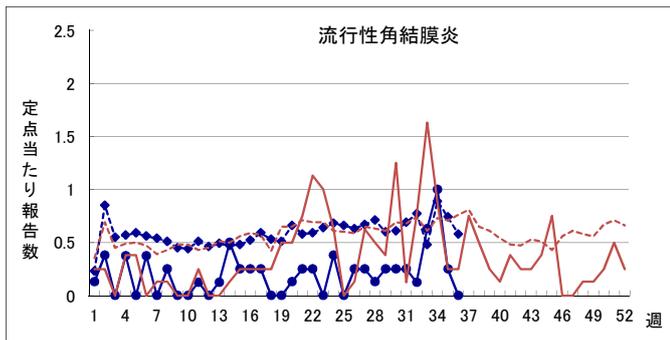
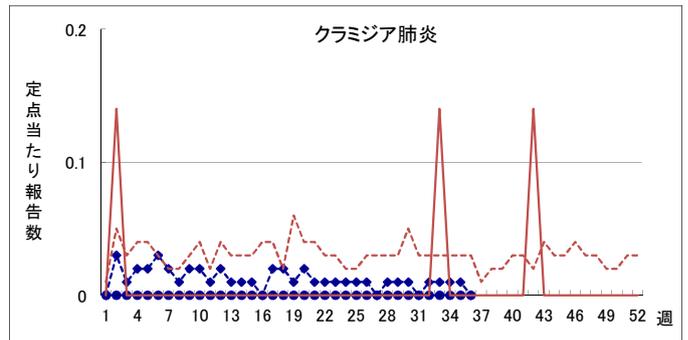
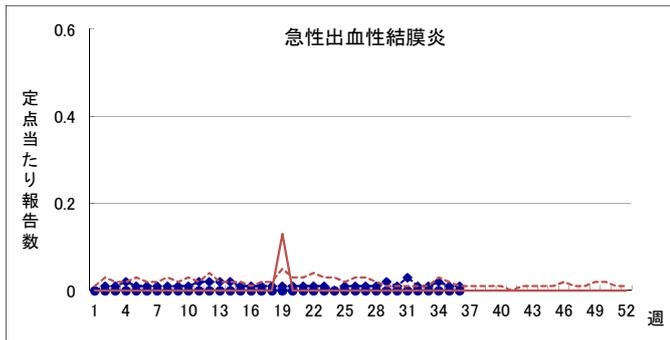
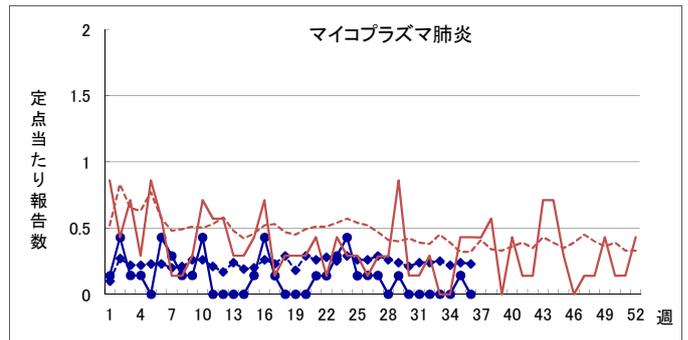
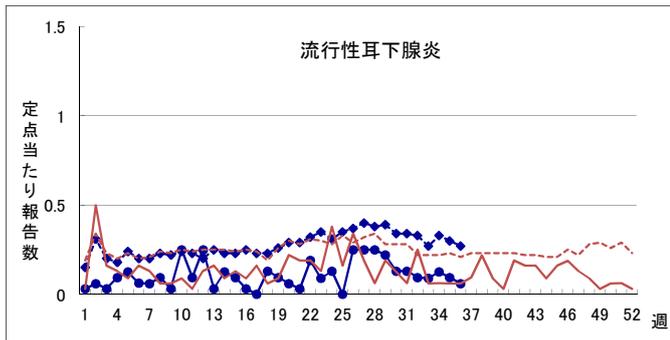
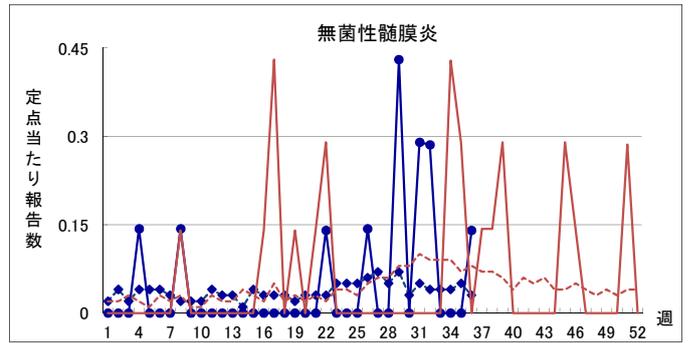
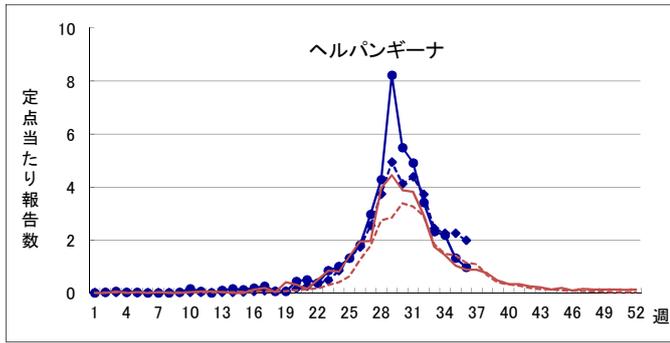
5-1. 疾病別定点当たり報告数 平成26年第36週

- - - 平成25年 全国 平成25年 滋賀県
 - - - ◆ 平成26年 全国 平成26年 滋賀県



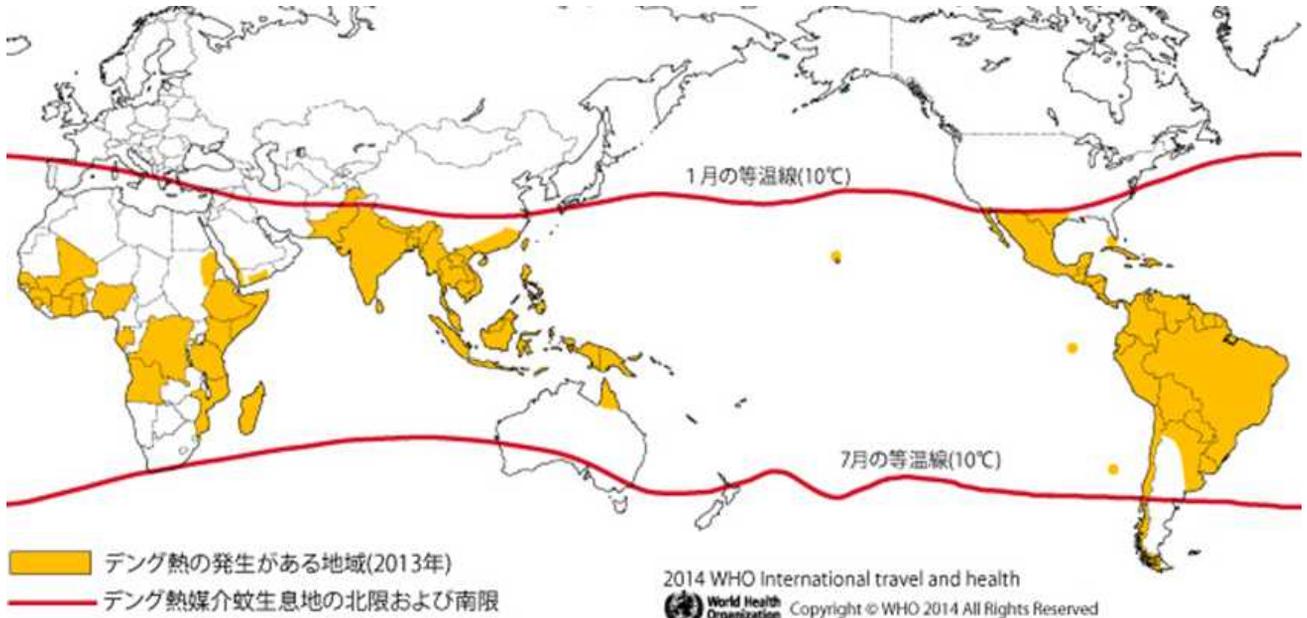
5-2. 疾病別定点当たり報告数 平成26年第36週

- - - 平成25年 全国 - 平成25年 滋賀県
 -●- 平成26年 全国 -●- 平成26年 滋賀県



注目すべき感染症 デング熱

1. デング熱は、熱帯や亜熱帯で流行しており、日本においては特に東南アジア、南アジアへの渡航者を中心に、近年では毎年200名前後の症例が報告されています。
2. 約60年間、国内での感染例を認めなかったため、海外渡航した人に特有の病気だと考えられていました。
3. 今年8月から、海外渡航歴のない日本人においてデング熱症例を認めました。また、感染源と推定された東京都の代々木公園で採取された蚊からデングウイルスが検出されました。
4. 平成26年9月11日現在において、国内で感染したと推定される症例が96名認められています。
5. これまで、滋賀県内で感染した症例は認められておりません。



デング熱の流行地域(厚生労働省検疫所HPより)

どんな病気？

1. デングウイルスによる感染症です。
2. ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します(咳、くしゃみおよび接触などによってヒトからヒトへ直接感染することはありません)。
3. ウイルスに感染してから2～15日(通常3～7日)後、38～40℃の発熱、激しい頭痛、関節痛、筋肉痛、発疹がみられますが、1週間程度で回復します。
4. 異なる種類のデングウイルスに感染すると重症型のデング出血熱やデングショック症候群を発症することがあります。

対策方法

1. 蚊に対する対策を個人で実施することが最も重要な予防方法です。蚊が多く存在する場所に行く際は、長袖、長ズボンの着用、または蚊の忌避剤などの利用が推奨されています。
2. ワクチンや予防する薬はありません。
3. 特に海外渡航する際は渡航先の流行状況に応じて、蚊対策を強化してください。
4. 蚊に刺されてから3～7日程度で高熱のほか、頭痛、目の痛み、関節痛等の症状が見られたときは、最寄りの保健所へ相談、もしくは医療機関を受診してください。